

私達にある義務

先日のこと、知り合いのおばさんと家族で世間ばなしをしていると、話題がうなぎの話になった。

「そういえば、あそこの川でおつきなうなぎがようとれたなー。」
なにそれどこの川!?と私が父に聞くと、今はもうない、ダムづくりでなくなってしまった村の川だと教えてくれた。

この話を聞くまで私は、水の中に消えてしまった村の存在を、知らなかったわけではない。ダムのすぐそばにある公民館で、そのダムづくりがどのようなに行われていたのか、写真つきで詳しく書かれていたのを見て、知っていたのだ。ただ、この話を聞いたとき、そういえばそんなことが昔あったんだなー、とひどく他人事のように思ってしまったのだ。しかし思ってしまったから、自分がとても

山添村立山添中学校 三年

中窪 祐佳

恥ずかしく感じた。
ダムづくりは昔あったことでも、決して人事ではないのだ。

これはあくまで私の考えだが、ダムをつくるにはまず場所が必要だ。川がどこを流れ、どこに行っているのか。周辺にある土地は、どういった状況なのか。それを全部知った上で、ここが一番だ!という場所を決めるのだと思う。そして、その場所に村や人の住んでいる家があるのなら、ここにダムをつくりたいんです!と家の人に交渉するのだと思う。

さてそれを聞いて、家の人はどうなふうに思ったのだろうか。もちろんみんな、そんなことになるのは絶対嫌だと思っただろう。自分が長年住んでいた家が水の中に消え、一生戻ることができないのだから当然だ。

ならなぜ、「いいよ、ここにダムをつくつてくれ」となったのだろうか。反対する人も多くいたそうだが、当時の人の心情がどうだったのか、私にはよくわからない。ただ一つ、私が思うに、みんな自分達の、周りの人達の暮らしが少しでも豊かになるのならと、色々な人達のことを考えて、自分の家が犠牲になってもいいと考えてくれたのだと思う。

そして今、こうして私の家の近くにはダムがあり、そのダムの水を使うことで、水不足に困ることはあまりない。

しかし最近では、水に困ることがないせいにか、私達は水を無駄に遣いすぎている。誰もが必要、一度や二度はあるだろう。水を出しっぱなしにしたり、食器洗いに洗剤をつけすぎたり水を多く使ったりと。私もよくそんなことがある。

しかしそんなことをしては、ダムがいくつあっても足りなくなってくるのだ。ダムに水がたたくさんあるものの、雨が降らなければその水は保たれないのだ。そのことを、私達は充分理解することが必要だと、私は考える。

結局私がいいたいのは、これから私のような世代の人達が、ダムづくりで水の中に消えてしまった村や家の人達がいたことを、しっかりと知っておくべき、ということだ。私達の生活がよくなるためにと、もう二度とわが家に帰れなくてもいいと考えてくれた人達。その人達の当時の心情は、私達には絶対にかることをないものだろう。しかしその人達の思いを無駄にしないためにも、これからの生活の中で、水を無駄遣いしないように努める。ダムにある資源を大切に使う。私達にはあると思う。